

どこにある？



シリーズ～神の国～

2013/10/27

ルカ福音書17章20～35節



ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」

それから、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたが、人の子の日を一日だけでも見たいと望む時が来る。しかし、見ることはできないだろう。『見よ、あそこだ』『見よ、ここだ』と人々は言うだろうが、出て行ってはならない。また、その人々の後を追いかけてもいけない。稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように、人の子もその日に現れるからである。しかし、人の子はまず必ず、多くの苦しみを受け、今の時代の者たちから排斥されることになっている。

ノアの時代にあったようなことが、人の子が現れるときにも起こるだろう。ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていたが、洪水が襲って来て、一人残らず滅ぼしてしまった。ロトの時代にも同じようなことが起こった。人々は食べたり飲んだり、買ったり売ったり、植えたり建てたりしていたが、ロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降ってきて、一人残らず滅ぼしてしまった。

人の子が現れる日にも、同じことが起こる。その日には、屋上にいる者は、家の中に家財道具があっても、それを取り出そうとして下に降りてはならない。同じように、畑にいる者も帰ってはならない。ロトの妻のことを思い出しなさい。自分の命を生かそうと努める者は、それを失い、それを失う者は、かえって保つのである。言っておくが、その夜一つの寝室に二人の男が寝ていれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される。二人の女が一緒に白をひいていれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される。」

「間」か「中」か



- ❧ 最初の「神の国」はどこにあるか分からない
 - ❧ 「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない」
- ❧ 「神の国」は私たちの「間」にあるのか、「中」にあるのか？
 - ❧ 「あなたがたの**間**にあるのだ」[新共同訳]
 - ❧ 「あなたがたのただ**中**にあるのです」[新改訳]
 - ❧ 原語では”エントス“=「**内側**」の意

神の国が「間」にあるとすると



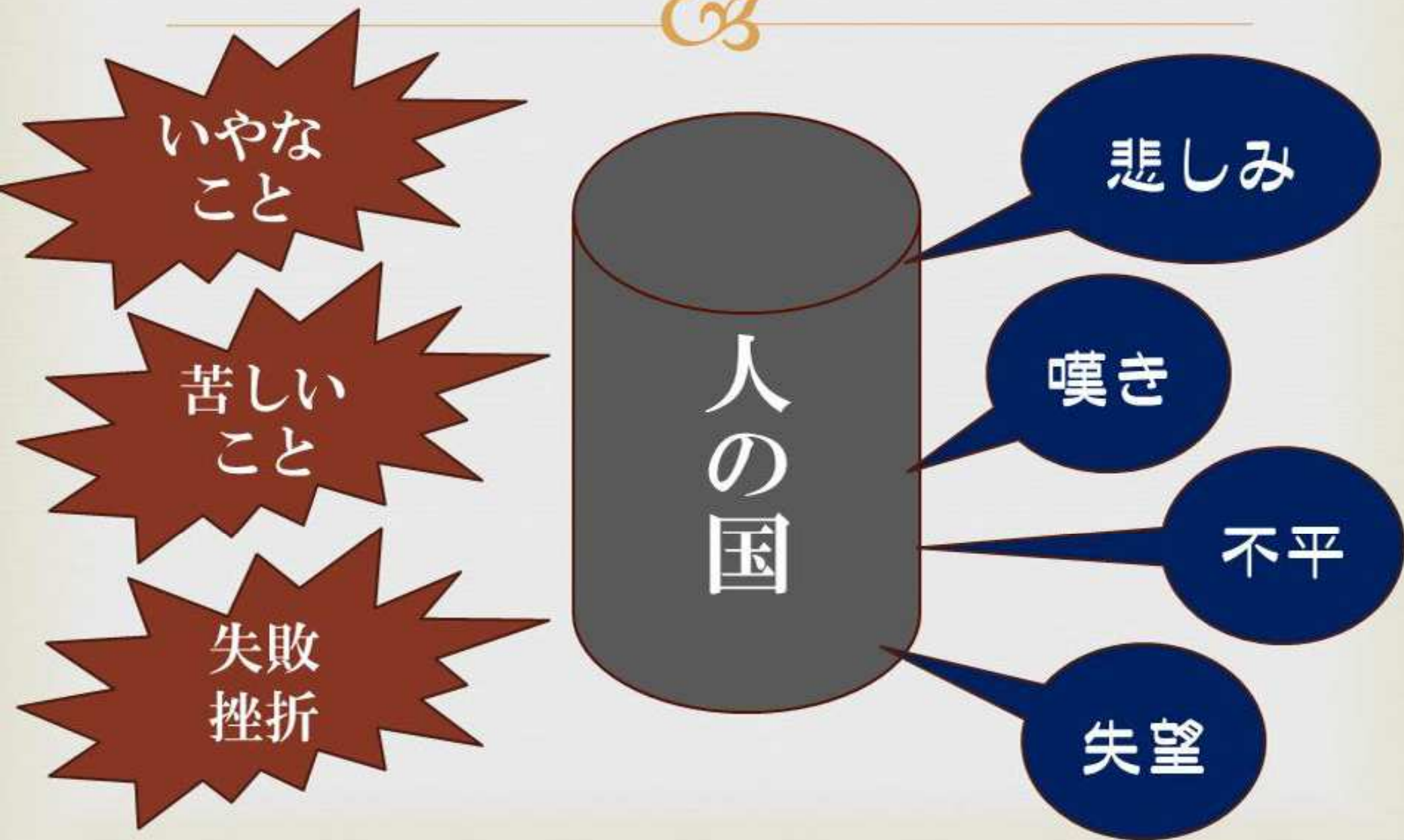
- ❧ 「人間関係」に「神の国」はある
 - ❧ 一人では「神の国」は造れません
- ❧ 隣人を愛し、仕える時、神の国は生まれる
 - ❧ 神の国の商売は、「あなたも愛されている」ことを愛の実践によって伝えること
- ❧ イエス・キリストは人と人を結ぶために降臨し、十字架で死なれた
 - ❧ 「十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」 <エフェソ2:16 >

「中」(内側)にあるとすると



- ☞ 私たちの「心・考え」(パラダイム)にある
 - ☞ “パラダイム”=「ある時代に**支配的な物の考え方・認識の枠組み**」
- ☞ 神の国のパラダイムとは
 - ☞ 聖書の教えそのもの
 - ☞ 「人の国」のパラダイムとは正反対!
- ☞ 神の国のパラダイムによって生きると
 - ☞ わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。
＜コリント二4:16＞

「人の国」のパラダイム



「神の国」のパラダイム



いやな
こと

苦しい
こと

失敗
挫折

神
の
国

「神の国」のパラダイム



いやなこと

苦しいこと

失敗
挫折

神の国

喜び

賛美

感謝

希望

「神の国」が現れる!



☞ 「その日」の前に

☞ キリストが見られなくなる(22)

☞ キリストは苦しみを受け、排斥される(25)

☞ 何事もなかったかのような日々が続く(26～)

☞ 「その日」が来ると

☞ キリストが「稲妻のように」現れる(24)

☞ 一人は連れて行かれ、他の一人は残される(34)

☞ 「神の国」が到来したことがすべての人に分かる